



NO 1 0 1

H 7 年 11 月 1 日

一 発 行

〒869-12

熊本県菊池郡

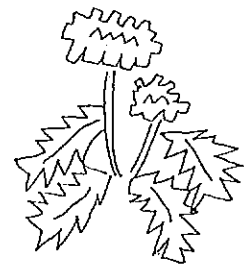
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



植える

理事長 田中 稔

熊本市から施設のある大津町までの車窓から出会う景色は、ゆったりとした時間の流れに浸っているようで気に入っています。春のいろんな花が一斉に咲く頃もいいのですが、今頃の晩秋の景色もなかなかいいものです。大津街道沿いの榎並木が真っ赤に色づいて、

蠟の原料になる実をたくさん付けます。昔肥後藩の産業の育成の一つとして榎は植えられたものと聞いています。施設の敷地内にも大きな榎の木があります。しばらく行くと阿蘇山を背景に黄色の頭を垂れた稲穂の波が続きます。今年

は稲のできがいいようです。所々に彼岸花やコスモスがかたまって咲いています。施設の敷地内には先の榎の木と藪ツバキの木と大きな雌雄の銀杏の木があります。銀杏の木は台風19号で痛め付けら

れましたが立ち直って今年もたくさん実を付けてくれています。銀杏の実を取るのにはかぶれたりして大変なのですが、実を袋に入れて施設で売って班の収入にしています。これを買って帰ってビールを飲むのが楽しみです。花実を付ける木で、もともと施設の敷地内にあったものは、この三本だけです。それでは現在、施設にはたくさん

の花や実のなる草花や木々があります。これはどうしたことでしょうか。施設の敷地としてこの土地を取得する為に見に来た時は、小さな笹が生い茂る一面の藪でした。今の施設の様子からは想像もできません。施設が建ってからも残っている藪や根っこを、園生と職員で一輪車を押して、汗だくで土をかぶせて根を枯らして整地してくれて、今のような景色に変わっていききました。このような経緯を知っている職員も少なくなりました。

今施設で見られる花や木は、こうして整地された場所にいろんな人が、いろんな想を込めて持ちよって植えられたものです。花水木、梅、椿、山茶花、ムクゲ、ツツジこれらは障害のある人の生活の場を豊かにしたいという気持ちから人知れず、いろんな人達が持ちこられたものです。敷地のあちこちに榎の木が育っていることに気づいている人は少ないと思います。これは土井施設長が開園の頃、将来役立てたいと小さな苗をそっと植えていくくれた木が大きくなったものです。施設の花や木は、人の心が植えられる、育っているのです。後から来た人達は施設があることや、施設の中身がそうあることを当たり前のように思っています。せんか。施設は人、人の想によって育っていくものです。



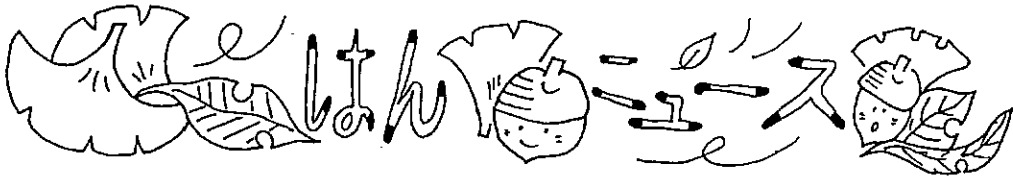
一のん気 - 二ん気 - げん気

▽晩秋の風物詩ロールや四角に巻かれた米ワラがあたりこちらで見られるようになった。稲刈りを終えた田圃には、落ち穂をついばむ鳥たちがここぞとばかりに飛回る。越冬を前にした彼等の活力の源の様だ。

▽三二〇年ぶりの、久住連山の一つ、星生山の噴火で、秋の行楽シーズンの出鼻をくじくような格好である。三気の里でも紅葉を眺めようと企画していた。残念ながら久住登山はあきらめ小国から涌蓋山に登り遠く久住を眺めることとした。涌蓋までは届かなかったが、紅葉は充分堪能できた。

▽棟上げ。先日農耕班の新作業棟の棟上げが行われた。何棟目の棟上げだろうか。三気の里の丘陵を見渡すと幾つもの作業棟が連なり壮観である。作業棟の全てが職員の手による物だから一層感慨深い。砂野氏を中心に制作された作業棟、次は何が整備されるのだろうか、好ご期待である。





## 2班 - 日焼けの秋

日一日と秋が深まり、過ごしやすい日々が続いている今日この頃、盲腸で入院していた石丸指導員も10月から仕事に復帰し、久々にメンバーが勢揃いした2班は、ネットに仕分けにと作業に励んでいます。

そんな2班が、去る10月19日にハイキングに出掛けました。場所は三気の里から遠く離れた芦北の御立岬公園。天気は曇一つない日本晴れの、まさにハイキング日和。公園内には、草スキーやスーパースライダー等のアスレチックがあり、全員が遊べるように予算も用意していましたが、いざスーパースライダーを目の前にして、「乗る」と言ったのは泰彰君だけ。正樹君、よっちゃん、まこちゃん、まーちゃん、由布子さん、さゆりさん、民さん、たっちゃんは怖がって、一度も挑戦する事ができませんでした。聡ちゃん、博君、忠ちゃん、文ちゃん、宣陽さん、晃子さん、幸恵ちゃんは、のんびりと浜辺を散歩しながら砂や貝殻を集めて過ごしていました。

晴天の秋空の下でのハイキング。あまりの気持ち良さに帰りのバスの中で眠ってしまったのは職員だけでしょうか？園に着いた時には、みんなの顔がちょっぴり日焼けしていました。 佐藤



## 3班 - 模様変え

季節が変わると模様変えをしたくなるのは私だけでしょうか？木工班は、博美ちゃんが10月に入所し、加わった為20名となり、三気の里で一番Bigな班になりました。それに伴い作業棟の配置を少し変えてみました。

自閉症の人達は、何をすれば良いのか、自分の場所が明確に分かることで安定するようです。少ない指導員で皆に頑張ってもらうには、やはり、それなりの工夫が必要です。気が散りやすい人には粗等で間仕切りをしたり、作業課題を一人一人設定する等を行っていますが、午後、2時間、3時間と集中して同じ作業を行うのが難しい人が多く、太り過ぎが心配な人も多いため、3時から動作法訓練や運動場でのランニングも始めてみました。穏やかに、楽しく生活するには、もっともっと工夫していなくてはならないと思っています。

それから、お願いになりますが、作業棟がより落ち着ける場所になるようにソファがあったらなーと考えました。不要なソファがありましたら是非木工班に下さい。 高橋



## 4班 - 宿泊レクリエーション

素晴らしい秋晴れの下、4班は10月18日～20日まで山口・四国の方へ宿泊レクリエーションに出掛けました。やはりこの日が待ち遠しかったのか、バスに乗り込むときのみんなの表情と言ったらとても生き生きとしていました。

今回の宿泊レクリエーションは、2泊とも温泉旅館で1泊目が山口の湯田温泉、2泊目が愛媛の道後温泉で温泉がメインの旅行となりました。その他観光名所として、山口では瑠璃光寺や錦帯橋、ニューオーランド村を見てまわり、四国ではお菓子館、石手寺などを観光しました。

旅行初日でホームシックにかかった久美ちゃんも、フェリーの中で手に汗握っていた創くんや潔くんも、三気の里に帰る途中もう少し旅行に行きたいと怒っていた舞永くんも、最後までけがも病気もなく無事に戻ってくることができて本当によかったと思います。今年度の宿泊レクリエーションはこれで終わってしまいましたが、また来年度に向けて頑張ろう！4班の皆さんお疲れ様でした。 高田

## 1 班 - 秋は山道

全体レクの鞍岳登山を終え、その5日後、1班レクはまたもや登山だった。「好きだねえ（山登りが）。」と他班の職員にあきられたが、いくら好きでも一週間もおかずに又、とは本当の所避けて通りたい気分だった。が、しかし、秋の登山はやはり心魅かれるものがある。五日前の疲れもなんのその（多少無理を言っている。）、「あ、こっちかな。」と浮かれて進んで道を間違えた。

間違えたものの引き返す事が出来ず（気持ち的に。）、「さあ、頑張れー」と皆を促して、非常に険しい道無き道を登る。ともすれば、後につんのめって落ちそうになる。「前を見て、止まらないで！」と大声を出すと、その園生は反射的に怒りながら道を掛け登り、すぐに疲れて立ち止まり、そして今度は泣き出しそうな顔になった。それでも「頑張れ！」「頑張れ！」と呪文のように繰り返し声を掛けられ皆一歩ずつ登っていった。

道もやっと「これが山頂まで続く道だ！！」と本道に戻ったところで昼食となった。もちろん、これ以上上に行く気持ちは（体力的にも）無かった。のんびりとあたりを見渡しながらかき食をとる。とても景観の良い場所だった。連なる山々を見ながら「まだ登っていない山がたくさんあるなあ。」と坂井指導員がポツンとつぶやいた。足元に目を落とすと、傍らにはシオン、そしてフデリンドウ、ウメバチソウ。登ってくる途中にはゲンノショウコの鮮やかなピンクの花も咲いていたなあ……。草原に咲くそれらのかれんな花は、山を訪れる者の一つの楽しみである。

山を訪れるもう一つの楽しみは、なんといっても山登りの後の温泉だ。今回は、“はげの湯”で、湯に浸りながら見る紅葉は正に格別で、心を豊かにしてくれる日本の情景そのものだった。 坂本

## 5 班 - 収穫だー！！

私達5班のメンバーに9月29日より新しく女性の方ルリ子さんが加わりました。園生13名となった5班はさらににぎやかになりました。

今年も、恒例の杜仲茶摘みの作業を行っています。午前9時15分。この時間までにはみんな作業服に着替えて準備を済ませます。約45分かけて現地（阿蘇郡内牧）へ行き、みんな指示されなくとも自分で杜仲茶の葉っぱを熱心に取ります。阿蘇の大自然の杜仲茶畑で作業をしていると、高い空、澄んだ空気と本当にさわやかな気分になります。みんなの作業の疲れを癒すのは、何と言っても杜仲茶摘みの作業を下さったイマックス様からの手作りのお弁当とおやつです。よく働いた後の御飯は格別です。

今後の園内での作業はビニールハウスの片付けや種蒔きを予定しています。私達5班もこの澄みきった青空を見上げながら『収穫の秋』を味わっています。

5班はこの秋、豊作です。



# 療育シリーズ

絆

園長 土井 尚典

うさんがテンカン発作を起こし、頭を強打した。病院で診察を受け、外傷性くも膜下出血で、2週間の入院となった。現在は脳外科的には心配ない状態まで回復し、退院を待つばかりである。

入院にあたり、病院からは付き添いをするよう指示された。家族の方は高齢で、付き添いに無理があるので、職員が手分けして24時間体制で付き添っている。最初のころは頭を打ったこともあり安静が必要であるにもかかわらず、点滴を外したり、ベッドから降りたり、付き添いも大変であった。病状が安定してくると、彼は家族に会いたがった。面会に来られるけど、すぐにまた会いたがる。ご家族は高齢のお母さんと、弟さんだけである。お母さんは体力的に無理なので、もっぱら弟さんが来られる。職員が付き添っているとは言うものの家族が恋しい。そんな様子を、他の園生とついダブらせて考えてしまう。誰々ちゃん

だったら、もっと会いたがるだろうな、誰々ちゃんとは家族が多いからいななどである。

人は生まれる場所と育つ環境は選べない。心身に障害をもつかどうかも同じく選べない。一人で生まれて来て、一人で死んで行かなければならない。生ある内にどんな暮らしをし、どんな人と出会うか、障害者の場合もわたしたちと条件は同じだろうか。障害者は与えられた環境で暮らして行かなければならないだろうか。障害者自身与えられた環境にどう働きかけ、出会う人にどうかかわりをもっているだろうか。

病気やケガのとき一番つらいのは孤独である。自分のことを思ってくれる人が恋しくなる。だれでもそうだと思う。生まれる場所と育つ環境を選べなくとも、すべての人に与えられる共通点がある。それは人の子として生まれ、人の子として育って行き、人の中で暮らして行く。そしてさびしい時、悲しいとき、病気やケガのとき、またうれしいとき、そばに居て欲しい恋しい人ができる。

施設での療育は障害の本質に迫り、適応行動を育て、問題行動を

軽減して行くことである。しかし園生にとっては暮らしの場でもある。日々の暮らしの中で園生は、園生同志でかかわりを持ち、職員ともかかわりを作って行く。家族から離れて生活している園生が、施設の中で、日々平気で生活している訳ではない。施設でも自分の存在に気が付いてくれる絆を必死で作っている。そのことに気が付くとわたしたち職員でも、うさんの闘病をささえることができる。

絆は目に見えないけど、園生は言葉は言えなくとも、問題行動があろうとも、体中でいろいろな人とたゆみなくかかわりを作ろうとしている。障害者と何かの縁でかわる人達は、いつの間にかしっかりと障害者の方から絆を作られている。

軽減して行くことである。しかし園生にとっては暮らしの場でもある。日々の暮らしの中で園生は、園生同志でかかわりを持ち、職員ともかかわりを作って行く。家族から離れて生活している園生が、施設の中で、日々平気で生活している訳ではない。施設でも自分の存在に気が付いてくれる絆を必死で作っている。そのことに気が付くとわたしたち職員でも、うさんの闘病をささえることができる。



## 新入所者紹介

博美さん

木工班のメンバーに新しく加わった博美さんは、お茶が大好きです。作業では三色の色分けが得意です。



ルリ子さん

手芸とおしゃべりが大好きなルリ子さんです。園芸班で汗を流して頑張っています。どうぞよろしくお願いします。



お礼

イマックス(株)の今村様より杜仲茶を頂きました。

朝日野病院の中島様よりキーボードを頂きました。



### 登山

石井 康就

去る10月13日、もうすっかり秋の恒例となった登山がおこなわれました。今回も春と同様に、大津町の陽の原キャンプ場から鞍岳に登りました。頂上を目指すAグループから、キャンプ場周辺散策のEグループまでの5グループに分かれてそれぞれの目標地点を目指しました。周りの木々もすっかり色づき、幸い天気にも恵まれた為紅葉を楽しみながら登ることができました。途中急な上りがあり、春の登山の時には大変つらく感じられた所も、時折吹く心地よい秋風のおかげで気持ちよく登ることができました。それでもやはり頂上まで登ると、我々指導員の方は疲れの色を隠せず「はあく」とため息をつく人が多かったのですが、みんなは、すぐにお弁当を気にする人や、頂上を走り回ったりとまだ余力を残している人の方が多かったようです。他のグループもお昼



ごろには目標地点に到達し、3時頃には全グループが下山し、無事に「秋」の登山を終えることができました。またすぐに「春」の登山がやってきます。その時は、みんなまた頑張ろうね!

### 運動△△

山口 裕之

去る、10月22日に三気の里、三気の家で合同運動会が開催されました。



先月、雨の為延期になり、今月はどうなるかと皆で心配していました。又、その反面運動会が開催されるのをいまいかまか楽しみ待っていました。その願いが通じたのか、当日は少し雲がかかっていたものの、プログラムが進むにつれ、雲もどこかへ飛んで行きました。

さて、競技の方はというと、皆汗を流し、ゴールだけを目指して走る人もいれば、マイペースでんびりゴールを目指す人もいて、見ている方も一緒になって楽しみました。又、特技発表では皆緊張で、発表どころではないのでは? というこちらの心配をよそに素晴

らしい遊戯、演奏をみせてくれ、今回の運動会は大成功に終わる事が出来ました。

これも、ご協力頂いた保護者の方々、ボランティアで来られた方々のお力添えのお陰だと思っております。どうも有り難うございました。



### 食堂生営日業中

食事が終わると、いつも厨房をのぞいて「献立を見せて」というように手を伸ばしてくるでっちゃん姿があります。私が献立を見せてあげると、うれしそうにそれを見ています。しばらくすると、一糟君や敬ちゃんもやってきて三人で仲良く献立を見えています。そんな姿を見ると、厨房の私たちも嬉しくなってきました。

これからも、みんなが喜んでくれるようなメニューを作っていくから楽しみにしててね! 上村

### 栄養の話

「アブラののった魚こそ 健康によい」

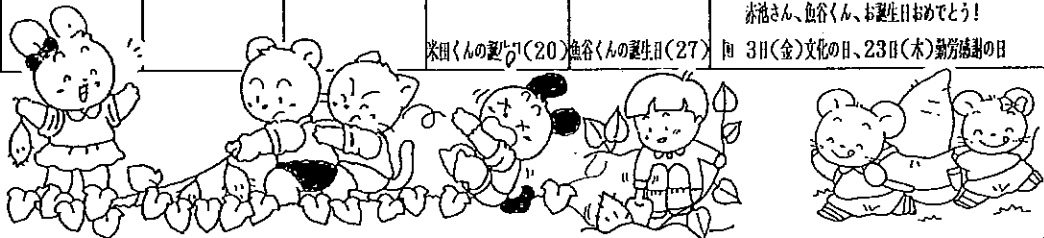
成人病予防のために魚を、それも脂肪の少ない白身魚を食べる人がいます。確かに大トロなど油ののった魚は犬ったり、コレステロールがたまりそう。でも成人病予防に大切なのは実は魚油です。魚油に多いEPAやDHAはコレステロール低下作用や血栓を防ぐといった働きがあるので、脂肪の少ない白身魚でなく、脂肪の多い青身(鯖・サンマ・イワシ・アジ)、や赤身(マグロ・サケ)の魚を食べべたら効果的。一日に一切れを目標に、しっかりと献立に取り入れたいものです。脂肪の少ない白身魚は低カロリーなので健康に、というよりむしろダイエット向きといえるでしょう。

前田



11月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土	備考
11	11	1	2	3	4		
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	11月3日(金)文化の日、23日(木)勤労感謝の日 後二くん、有働さん、藤本さん、行武さん、米田くん、赤池さん、色谷くん、お誕生日おめでとう！		



ボランティア通信

さわやかな秋風に吹かれ、大変過ごしやすい季節となりました。皆様は、この季節を如何お過ごしでしょうか。

さて、去る10月22日(日)、秋晴れの下、三気の家・三気の里の合同運動会が行われました。当日は多勢のボランティアの方々に参加していただきました。皆様の御協力により、無事運動会を終えることができた職員一同心より感謝いたしております。ありがとうございます。

- ☆ボランティアありがとうございます
- ☆散髪 松尾博美 清田純一
- ☆生け花 西村栄子
- ☆ブラッシング指導 森 隆子
- ☆運動会
- 本田 治 磯部武志 松野和洋
- 淵上尊文 古市博一 久保貴志
- 楠原浩幸 森 隆子 田中健二郎
- 小野リカ 赤星直美 緒方真紀
- 松川順子 緒方智子 前田ひろみ
- 飯星笑子 池田紀子 井手垂季子
- 福岡弘子 藤原圭子 伊津野由美
- 廣田まり 今森星良
- 小細工恵美子

後援会入会

ありがとうございます

- 前田恭男 松岡淳子 百崎末雄
- 中下 清 江嶋謙一 徳永昭憲
- 國吉 淳 山口悦子 牛島房子
- 上田清秀 城門千代

平成七年十月二十五日付け

※敬称略



編集後記

先日、入所している有働さんが、外傷性クモ膜下出血で緊急入院となった。本人は快方に向かい退院も間近で、職員一同少しほっとしている。

編集しながら自分の年齢も成人病適齢期を迎え少々心配になった。隣で頭を使わない人は心配ないのではと、笑い。

坂井

